

コンピテンシー・モデル

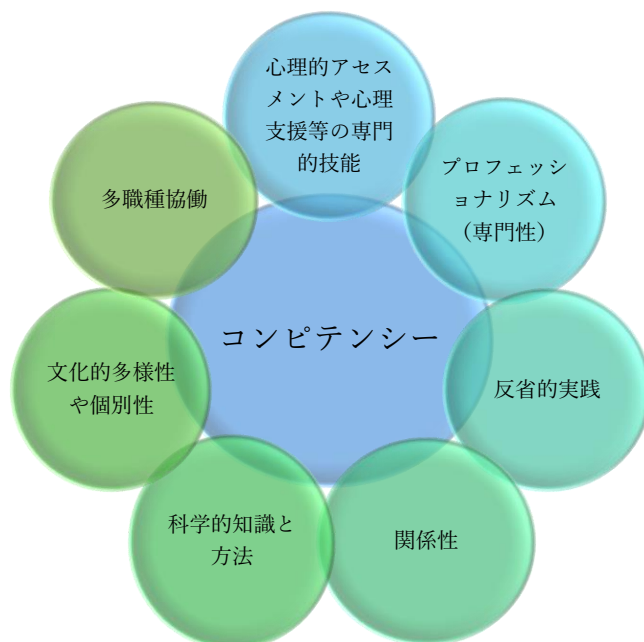
日本公認心理師協会が考える公認心理師

コンピテンシー・モデル

コンピテンシーとは、望ましい結果を出すことができる資質や能力を意味する言葉です。日本公認心理師協会（以下、本協会）が考える公認心理師は、公認心理師法に定められている「国民の心の健康の保持増進」に資する質の高い心理支援を行うことのできる資質や能力を身につけた、“コンピテンシー・モデル”を基盤としています。

本協会が大切にするコンピテンシーには、心理的アセスメントや心理支援等を総合的に行う力、要支援者の自己決定を徹底して尊重する専門性、実践の結果を踏まえて逐次対応を修正してゆく反省的实践、関係性の重視、科学的知識と方法、文化的多様性や個別性の尊重、学際的な多職種協働の重視などを含みます。すなわち、科学的知見の適用に留まらず、これらの力を包括的に展開する実践を公認心理師は行います。

本協会は、こうした理念に則りつつ、生活者一人ひとりに現実的に貢献する、要支援者中心の公認心理師という基本的な考えのもと、研鑽を重ね、活動を続けます。



コンピテンシー・モデル

コンピテンシー・モデル【簡易版】

日本公認心理師協会が考える公認心理師 コンピテンシー・モデル

私たちは、生活者一人ひとりの心の健康の保持増進に貢献することこそが公認心理師の使命であるとの基本的な考えに基づき、自己研鑽を重ね、十分な資質や能力（コンピテンシー）を修得することを目指します。ここでいうコンピテンシーとは、科学的な知見を適用するのはもちろんのこと、相談者との関係を大切にし、その自己決定を尊重すること、また文化的な多様性や多職種との協働を重視し、自らの実践を徹底して振り返りながら業務に当たることなどが含まれます。このようなあり方をコンピテンシー・モデルと呼び、公認心理師の基盤として位置づけながら、生活者一人ひとりの心の健康に資する現実的で幅の広い活動を行います。